



**国技館**

(東京都墨田区、(公財)日本相撲協会より写真提供)

現在の国技館は3代目で、昭和60年(1985)1月場所から使用されています。年3回(1月・5月・9月)、大相撲の本場所が開かれており、多くの人で賑わっています。ここで宮崎さんが作った土俵だわらが使われています。(平成30年9月場所まで)



**本場所用土俵(市立旭小学校所蔵)**

吉之助さんが編み、呼出しの方によってつくられた本場所用の土俵が展示されています。作られてから約30年経過しても、本場所用土俵の美しさを感じることができます。



**『どすこい! ふうちん』(PHP 研究所)**

平成3年(1991)に、童話作家で元町立児童館ワンダーランド館長を務めた上條さなえさんが吉之助さんに取材協力をいただきながら制作した本です。上條さんは、「相撲が好き女の子をユーモラスに描いた」とのことです。この絵本は、市立図書館(室)で読むことができます。

**参考文献一覧**

- 『さいたまの職人』(発行:埼玉県立民俗文化センター)
- 『吉川市史 民俗編』(発行:吉川市)
- 『旭地区の民俗 I』(発行:吉川市教育委員会)

編集・発行 吉川市教育委員会

発行日 平成30年9月

印刷 株式会社プレス

**学習キーワード**

家族・技・伝承・継続・稲作(早稲米・アキニシキ)とわら工品・相撲

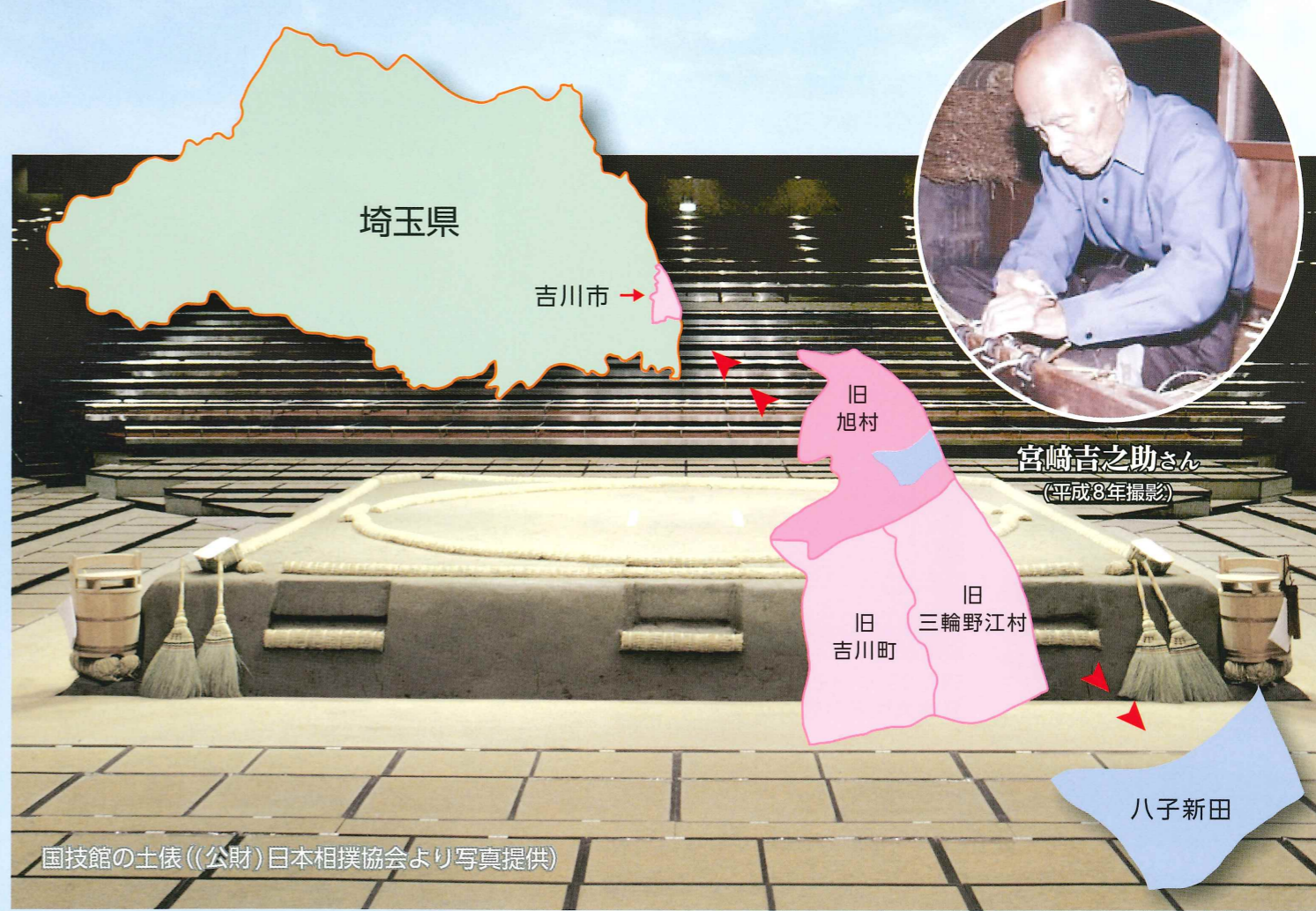


八子新田の場所を確認してみよう!



みやざききちのすけ  
**宮崎吉之助物語**

～家族で支えた土俵だわらづくり～



宮崎吉之助さん (平成8年撮影)

国技館の土俵((公財)日本相撲協会より写真提供)

—吉川市教育大綱—  
家族を 郷土を 愛し  
志を立て  
凜として生きてゆく  
(平成29年3月制定)

日本の国技「相撲」は、古来より日本人に親しまれ、土俵内で力士2人が勝負を争う個人競技。この相撲になくてはならないのが土俵です。宮崎吉之助さんは、土俵に使う本場所用“土俵だわら”を全国でただ一人作り続け、家族とともに三十三年間もの間、相撲界を陰で支えました。

